

物流事業を手掛けるホンダロジコム(春日井市)は、キクラゲの栽培や加工製品の販売を通じて障がい者の雇用創出に力を入れている。単純作業になりがちな障がい者の仕事に働きがいを感じてもらうため、製品化の過程を実感できる農園「春日井ファーム」を2017年から運営している。今後、売れ行きが好調な乾燥キクラゲや加工製品の生産を拡大し、さらに雇用を増やしていく考えだ。

(磯貝岳)

# 農業で障がい者雇用創出 ホンダロジコム 働きがい向上で社会貢献



栽培したキクラゲの仕分けをする従業員ら

障がい者雇用との相性が良いという。農園の運営を担当している同社ネオパリュックリエーション部スマート農業推進グループリーダーの神谷紗穂氏は「ほかの作物に比べて生育が簡単で、危険な作業がないため障がいを持った方でも安全に働ける」と実感を込める。栽培したキクラゲは、従業員

全意識の高まりから、国産キクラゲの需要が拡大しているようだ。需要の高まりに合わせて、収穫量の増加を計画し、従来のハウス栽培より効率的に生産できるよう、湿度や酸素、二酸化炭素を管理したコンテナでの栽培を試験的に運用している。農園の規模を拡大することで障がい者の雇用を増やし、さらなる社会貢献につなげていく。

同社が展開する商品群



農園の規模拡大を画策する傍らで、商品開発にも手を休めることがない。年間2品のペースで新商品を発売し、今後も開発を続けていく方針だ。これまで通りスーパーの売場を主戦場にする一方、贈答用などもラインアップに加えて、高級路線も視野に入れる。原料やパッケージにこだわった商品で、新たな販売チャネルの開拓を目指す。

同社がキクラゲ栽培に取り組みきっかけとなったのは、18年に障害者雇用促進法が改正され、雇用率が上がったためだ。既存の事業所だけでは雇い入れが難しくなり、新たな雇用を創出する必要があった。やりがいを持って働いてもらうことを第一に、製品化の過程に触れることができる農業に形態を決め、その中でも国産の生産量が少なく、市場に入り込む余地があったキクラゲに着目した。

キクラゲの栽培は、